

第8章 スポーツにおける女子学生のセクシュアル・ハラスメント認識 —グループインタビュー調査から—

ここでは、大学の専攻とスポーツ経験についての属性が異なるふたつの女子学生グループに対して試みたインタビューの結果を報告する。

第2章 調査の方法と概要で示したとおり、インタビューはまず本調査の質問紙調査に基づいたディスカッション形式で進められ、後半は全員に示した新聞記事に基づいたディスカッションが展開された。ここで話された内容は、彼女らの属性を代表する意見や感想であるとはいえないが、女子学生としての日常を生きる彼女たちのセクシュアル・ハラスメントに関する固有の認識や解釈が、それぞれの生活経験に基づいて述べられている。

前者のグループ（スポーツ非活動グループ）のディスカッションはどちらかというスポーツを外から見たときの認識に基づいた意見、後者（スポーツ活動グループ）はスポーツにおける個人の具体的な経験に基づいた意見という傾向の違いがみられる。また質問の仕方によってはもっと多様な展開も可能であったと思われる箇所もあり、その反省点は今後のより緻密なデザインと分析による質的調査の課題として残し、ここではこの結果を分析することは避けた。従って本章では、話の文脈がわかるようインタビュー内容をできるだけ忠実に記録し、質問紙の数量的な分析ではとらえきれない、彼女らの固有の文脈を知るための参考資料として記述するにとどめたい。

* 文中「A」「B」「C」は参加者、「I」は進行者をさす。

**意味が読み取りにくい箇所には編集段階で（ ）内に補足を加えた。

<その1 グループX>

Q1. 調査用紙の間10（スポーツ内）と間11（スポーツ外）では、セクシュアル・ハラスメントと認識する項目に違いがありましたか？ あるとすればそれはどのような項目ですか？

Q2. その違いはなぜ生じると思いますか？

A. たとえば、「(容姿やスタイルなど) 身体的な特徴を話題にする」。スポーツの場のほうをわたしは「1 (そう思う)」にしました。スポーツ外は、「2 (どちらかというと思う)」。

I. なにか理由はありますか？

A. う〜ん。スポーツの場のほうがそういうことを発しやすい。

I. ああ、発しやすい。じゃあ、発せられた場合の評価としては？

A. 評価・・・ああ、やったら、そう思ったら逆に、スポーツの場のほうが受け入れられやすい。

BC. うん、うん。

I. ああ、受け入れられやすい。じゃあ、それでいこうかな。スポーツの場だと受け入れられやすいと思われるのは？

マッサージ（仕事や活動中／指導中に背中や肩をマッサージする）

B. わたし、マッサージとかはそう思う。

C. わたしも。

B. ふだんの生活のときだとマッサージは特別っぽい気もするけど、スポーツの場だとそうでもないかなーと思ってしまう。

C. 指導者が選手の疲れを取るためにマッサージをすとかってというのは、自然で、ありそうなことやし。

A. うん、ありそうやな。想像やけど。

I. えっとじゃあ、その下の、「あいさつや励ましのために体をさわる」っていうのはどうですか？

B. わたしこれ、どっちも一緒に、「4（そう思わない）」。

C. わたしも、どっちも一緒に。

A. わたしこれ、スポーツは「2（どちらかというと思う）」で、普段の場は「3（どちらかというと思わない）」。

I. それは、スポーツの場だとセクハラとしてきびしく認識するというのに、ここではなるんだけど？

A. そうですね。なんか、スポーツの場って、からだに触るとかっっていうのがすごいありそうで、なんかそれを、わたしはすごい、必要以上っていうふうに思っちゃうんですよ。必要以上っていうか、スポーツの場だから容認されてるっていうような。容認されてるから、逆にタチ悪いかなっていうような。

I. ああ、なるほど。それはそのさっきの2番「(容姿やスタイルなど) 身体的な特徴を話題にする」でも同じこと？他にそんな感じで見ていったときに、スポーツ内外で評価が異なるところは？

C. からだに触るっていうときに、スポーツの場ではありそうで、なんか、仕方ないかなという風に私は思ってしまうし、その、触り方とか、意識の差でセクハラっぽく思ったり、思わなかったりっていうのはあると思う。スポーツ選手が走ってて、一番になって監督と抱き合ったら、それはセクハラじゃないけど、学校とかで100点取って、抱き合うって・・・(一同爆笑)

A. あはは、わかるような気がする。ははっは、そうやんな、でも。

C. うん、そう考えると・・・。

A. でも、どうしてなんやろ？

I. おんなじ行為なんだけど、指導者と指導される側がいて、指導して励まして、100点取りました、合格しました、大阪女子マラソントップで入りました、やったねー！で。これが勉強の指導だと・・・。

B. よっぽどすごい塾の先生とかやったら、あるんかも。

A. あるんかなー。

I. え、あるの？塾の先生の場合も？

B. わたしのイメージの中ではあるかも。中学、高校受験とかで、男の先生でめっちゃめっちゃトップ校の場合とか。

- A. でも、スポーツの方がはるかにあると思う。見てても別に違和感なく普通にあると思う。
- B. うん、うん。
- I. なんでなんだろうね。
- A. ね。
- B.C. ふふふふふふ。
- A. なんでやろ、不思議。そういう、なんやろ、肩書きがなかったら、言い方悪いけど、「おじさん」と若い女の人と・・・
- B. うん。
- I. まあ、不思議ではあるが、スポーツの場だと、そういう高揚感を共有するときに抱擁するっていうのは、あらゆる関係で、あり？
- A. あり。
- B. あり。あり、かな、うん。そやね、場所が会社になったら・・・
- A. 会社は、ね、ううん。
- I. 逆に、なんで会社だったら違和感があるのかな？
- A. ううん。
- I. そうか、君は課長になったかと抱擁する・・・
- A. なんか、いや！！
- B. いやー！
- I. でも、スポーツだったら、あり？
- B. なんか、セクハラってきいたら、会社のイメージがすごくある。
- A. うん。上司と・・・みたいな。
- B. まあ、ちゃんとした（セクハラの）講習をわたしが受けてないからかもしれないけど。セクハラって聞いたら、会社の場面が浮かぶし。
- A. うん。やんな。うんうん。
- B. スポーツっていうのにセクハラって、イメージしない。
- I. しない？
- B. 前、なんか事件ありましたよね。セクハラの。選手に強要するとか、そういうの。そういうときは、ああそうなんやって思うけど。

おばちゃん、ねえちゃん（「おばちゃん」「ねえちゃん」など人格を認めないような呼び方をする）

- B. わたしは逆にこの、「おばちゃん」とか「ねえちゃん」とかいうのは、このあたりでは普段よく聞くから、逆にスポーツ場面で聞いたら、「えっ」って思うかもしれない。
- A. ああー。わたしは（セクハラとしての認識が）両方いっしょやわ。
- I. それはつまり、ふだんのほうがよく聞くから、容認されてる・・・ってわけでもないけれども？
- B. まあ、たぶん、あんまり違和感なく聞いているような気がする。

- I. スポーツの場で聞くと違う気がする？
- B. なんか、「え」って、それは違う気がする。
- I. はあ、なるほどなるほど。
- B. ということは、やっぱり、逆にスポーツの場面でのほうが、気になるっていうこと。
- C. スポーツの場面で、男性の指導者が選手に「ねえちゃん」っていうのは、どんな場面なのかが・・・？
 どういうときに「おばちゃん」とか言うのか？
- I. どんな場面なんでしょう。
- A. う～ん。

女性のくせに （「女性のくせに」「女だから」などと言う）

- C. あと、「女性のくせに」とかっていうのも、普通の場面では想像できるんですけど、スポーツの場面で「女だから」なんてかかっていわれると、なんか違和感があります。
- I. えーと、その違和感は、どういうときに言われるのかがわからないという意味での違和感？
- C. 成績が悪かったりしたときかなーって。
- A.B. あー、うんうん。
- I. 普通の場面でこれを言われるのは、あんまり違和感はない？
- C. (違和感) あるけど、なんか、よく言われてるな、っていうのは、ある。
- I. ということは、スポーツの場面ではこういう言われ方っていうのは、あんまり聞いたことがないような気がする？
- C. スポーツで「女っぽい」とかって言われるのがすごい、いやな感じが。
 ふだんでは女っぽいことをしてないときに「女っぽい」って言われるのはなんとなくわかるんですけど、スポーツしてたらあんまり女っぽいとかって関係ないような。女だってサッカーするときには、こう、ワーってなるわけだから。うん、うん。
- I. こういうことをスポーツの場で言われるのはどうかしらって思っちゃう？
- C. うん。あ、とか、女だから、この記事みたいな感じで、指導がたいへん、みたいな感じで言われるといやだなんて思う。(のちに触れる新聞記事について)
- A. うん、うん。
- I. うん、なるほど。あと、ほかになにかないですか。

個人指導 （特定の人物だけに個人指導をたびたび行う）

- B. 個人指導。わたしは「2（どちらかというと思う）」と「3（どちらかというと思わない）」の違いで、ふだん（の場合）が「2」で、スポーツ（の場合）が「3」かな。
- I. あー、ふだんのほうがセクハラとしての認識が厳しい？ スポーツだと、ちょっと甘い。
- B. そんな感じ。ふだんだと、あの、個人指導っていうのが思い浮かばへんけど、個人的にどうっていうのは、違和感がある。スポーツ場面だと、あるかな。
- I. うーん。ゼミ生で、ちょっと〇〇さんだけ、あとで個人的に来なさいとか。それが10回とかだっ

たりする・・・。

ABC. あははは。

B. うん。そういうのだとおかしいな一って、思うけど、スポーツやったらなんか、次、じゃこの人を育てていきたいのかなっていう。

I. ああ、だからある程度偏っていても違和感ない。

B. ていうか、そういう目では見えにくいかな、と思う。あまりに目についたらどうかと思うけど、ちょっとくらいやったら普通に思える。

I. それはスポーツ指導のときとふだんでは評価が違う？

B. うん、うん。

I. ほかのひとはどう？ 違う評価だったりする？

A. わたしは逆に書いたんですよ。スポーツでの方を「1（そう思う）」にしてふだんを「2」にしたんですが。

I. ああ、まったく評価が逆。そのココロは？

A. いかに。う～ん。なんでわたし、こんなんしたんやろ。なんでやろ。でもBが今言ってたのもわかるけど。

I. 違う場面を想定した？もしかして。

A. ですかねえ。う～ん・・・。 ちょっとわかんない。なんでかなあ。

I. Cさんは？

C. わたしはふだんだと「2（どちらかというと思う）」にして、スポーツだと「4（そう思わない）」で、Bと似たような判断。

I. 「特定の人物だけに個人指導をたびたびおこなう」ー同じような状況で考えてもらえばいいと思うんだけど。この人はもう少し指導すればもっと伸びる。この選手は力があると思うからより目をかける。この人もプラスアルファの時間をかけて指導して伸ばすというという、期待をかけているという、同じ設定で考えてみて。

C. スポーツだと服とかユニフォームとが違ったり、陸上だと短パンとかになって、触る場面とかも、マッサージとか言って触ったりしそうとかって、勝手にイメージを考えてしまって、ふだんよりは個人指導ってセクハラっぽいという感じがする。

A. あ、私、なんか今、そんな感じやと思った。

B. ああ、そういわれたら、それも納得できる。

C. 動くから、なんかありそう。

A. うん。なんやろ、この感覚？

I. 同じ場面を設定していても・・・

A. うん。なんか、違う。そう、だから、同じこと聞かれてるのに、この質問、感じ方が違う、と思いつながらつけてたんですけど。

I. この回答のつけ方、聞いてたら微妙やね。スポーツの方が「ありそう」と思ってて、「ある」から

容認されててセクハラじゃないって判断する人と、ありそうやからこそ逆にそこになんかあると考
えてる人と・・・。

A. ああ、わたしそっちかな。

I. それで、チェックをつける位置が「2」になったり「3」になったり？

A. 考えすぎなんかな。わたしもとちゅうでなんでかよくわからなくなってきた。

I. その違いの根本にはいったいなにがあるのかな。さっきCさんが「服装」とか「体を動かす」つ
ていうことばで表現してくれたんだけど・・・たとえばゼミ指導の場面と、スポーツでの場面での
違いってなんでしょう。「服」もある？

AB. ある、と思う。

I. あんまりごっそり着てませんもんね。

ABC. ふふふ

I. で、なんか触られやすい？

A. 触られやすい。なんかそれが、根本的にわたしはあるような気がする。ゼミ生同士で触りはしな
い。が、スポーツ指導では・・・うわさで、中学校のバドミントン部の顧問だった人が（おもしろ
半分で「セクハラや」って言ってたんだと思うんですけど）わたしはバドミントン部じゃなかった
から、うしろからこう（抱きつくジェスチュア）、やったりとか・・・それがわたしの人生のなか
のセクハラのイメージなんですわ。うん。

BC. ああ～。

A. スポーツ場面のセクハラっていったら、もうそれが思い浮かんじゃう。それがあから、うん、
だからなんか、技術指導っていうのにかこつけて触ったり、とか要求できるのがスポーツの場面が
多いかなって。だから、タチ悪いなって。

BC. ああ、うん。

A. で、ほかの外部から見ても明らかに、すごいなんか、ずっと噂されてて。

I. へえー。

A. で、今たまたまバイトでみつつ下（3歳年下）の子がいて、同じ中学校の子で、「あの先生、そう
やったやんな」って、みつつ下とかでも。わたしの弟はよつつ下なんですけど、そういう話がでる
から。

I. バドミントン部の顧問で、教科はなんの先生？

A. 教科は理科。

I. さっきスポーツの場面で「触られやすい」って言ったけど、仲間同士でもゼミの場面ではからだ
を触るようなことはなさそうだけど、スポーツの場面だったらわりと・・・

A. うん。身体接触はありますよね。それは女同士もあると思うし。

I. ふうん。そういう意味ではスポーツっていう場面設定自体がわりとこう、ふだんだったらここに
ある領域の境目っていうのがなくなる？

A. うん、なくなる。

- I. 仲間同士でも、スポーツ場面だと触ることが自然になる？
- A. うん、自然になる。その「自然」を、わたしはダシに使ってるかなって、思っちゃう。うん
- I. Cさんはどんな感じ？個人的には。
- C. わたしは触られることに関して仕方ないかなってさっき言ったんですけど、個人指導のときはセクハラっぽいついていったのは、ドラマで（一同笑い）テニスの指導場面で先生が・・・っていうイメージがすごい強くて、なんかそんなイメージをもってしまった。
- I. フォームを直すっていうことをきっかけにして？
- A. 自然って思うけど、なんかどっかで、「ううんっ」て、わたしは思っちゃう。
- I. さっき、スポーツでは男女かかわりなく壁が低くなるっていうか境界がなくなる感じがあるって言ってたけど、今、みなさんは女性なので触られる相手を男性と前提していると思うけど、女性の指導者がフォームを直すことについてはどう思う？
- A. でも、やっぱり男性とは違う。
- C. わたし中学のときはバドミントン部で、女の先生が生徒に手取り足取り指導しているのをみてもなにも思わなかったし、わたしが実際その先生にしてもらったときもなにも思わなかった。でも男の先生からされたときはちょっといやだなあって思いました。意識したりはしたかな。
- I. 男性指導者から、男子生徒が手取り足取り指導されるとしたらどうだろう？ あんまり触らないのかな？
- B. 触らなさそうだけど、触ってたとしても女性同士のときとおんなじイメージ。
- I. 同性だとあんまり違和感なく受け入れられるかなっていう感じ？ 女はどっちを触ってもOK？
- A. あはは、むずかしい。

自室に呼ぶ （旅行や遠征・合宿先で自室に呼ぶ）

- I. 最後の「旅行や遠征、合宿先で自室に呼ぶ」という項目についてはどうですか？ 評価は（スポーツの場とそれ以外の場とで）一緒ですか？
- A. 一緒。「1（そう思う）」。
- B C. 一緒。

Q3. 新聞記事について、あなたの感想を聞かせて下さい。

印象、感想

- A. こんなん書くとこういう神話がよけい続くような気がする。こういうことを言われ続けるんやなあ、と。
- I. 「こういうこと」というのは？
- A. え、男に依存して女は強くなる、みたいな。男の監督が絶対的な感じで、それについていけば女はとりあえずいいっていう感じですよ、これって。うん、で、結局これって、「そうですよね」って感じで書いてますよね。こういうことに対して、疑問をもったりはしてないじゃないですか。

I. 違う立場の意見とかがない？

A. うん。で、なんか、こういうことに対する例がなんかあって、そうじゃない場合の例が全然なくって、これで実際そういうことでうまくいってることもあるのかもしれないけれど、これはひとつの例にすぎず、あまりに偏りすぎた考えかなって思ったんですが。

I. うん、うん。偏りすぎてて、神話を作っちゃうんじゃないかと思った・・・。

A. うん、うん。

I. いろいろ言ってみて。いろいろ感じたことを。

B. 「ああ、そうなんや」って思わせてしまう内容。でもやっぱり、どこかで抵抗してる感じはある。

I. じゃあまず、「ああそうなんや」って、納得したところはどういうところ？

B. この実績というか、マラソン選手のこういうところ読んでみると、小出監督と高橋尚子のこととか思い浮かんできて。

A. ああ、思った、思った。

B. やっぱり、金メダルとってたりするんで、そういうこともあるんかなって、思った。納得させられてしまった。

I. 反発したくなる場所は？

B. 反発、なんやろ・・・(記事をさして) この辺、「十のうち、四～五しか教えない、男子には。でも女子は十のうち十を全部教える」とかいうせりふとか。

I. ふんふん。Cさんは？

C. 最初読み始めたときに、「女は男に依存して」とか、いやな感じだったけど、右のページの2段目の最後のほうに「女子選手は失敗すると泣くとかおしゃべりが多い」とか書いてあって・・・

B. 指導者の先入観がある。ないとはいえないんじゃないか。何十年の指導の結果、やっぱり、というようなところも。

スポーツにおける女子指導と男子指導の方法論の違いについて

I. その指導者の先入観、女性ってこういうもんだ、男性ってこういうもんだっていう考え、それは、ひとつには実際の姿を反映していない先入観もあるだろう。先入観だけ？ほんとうに違っているのではない？本来どうであるかということではなく、見た目での、十何年間育ってきた女性のあり方、男性のあり方とを比較して、一緒だって言ってしまえるのか、やっぱり違っているんじゃないのか、と思うか。

A. う～ん。あるような気がする。

I. 気がする？ どんなふうに違うような気がする？

A. んん・・・。

I. じゃあ、ここであるタームを利用して言うとする、その、タイトルに「依存」っていうことばがあるんだけど、依存とか主体的とかいうことばを使って、その違いが何か言えたりする？

A. それは女は男に依存しがちというか、依存することが多いっていうことですか？

- I. ということ？
- A. え一つ。
- I. まあ、依存的であるという度合いで考えると？
- B. それはあるような気がする。
- A. あるような気がする。
- I. 女のほうが、(依存的で) あるような気がする？ 男のほうが少ないような気がする？
- A. 両方あるけど、個人差もあるけど、度合いで言ったら。
- B. イメージというか。
- A. 感覚というか。
- C. 最近、女の人のほうが強くなっていったのを考えると、わたしは逆に男の人のほうが弱い部分があったりするのかな、と。
- I. 弱い部分。
- A. それは思うねんけど、スポーツの場って考えたら、どうしても、なんやろな、依存、依存・・・
- I. イメージかなんかわからないけれど、女子選手のほうが男子選手よりも他者への依存度がどっちかっていうと強いように思える？
- B. うん。
- A. 思える。
- I. それはその、女の宿命？男の宿命？ つまりその、生まれたときからそういうものなのか・・・
- A. う～ん、わかれへん。宿命っていうか、社会的にそうなってるかな。
- B. 多数派。女の子の方が依存度が高いっていうのは。そうじゃない人もいるけど、女の子の中には依存度の高い人が多いというか。
- I. 男の中には低い？
- B. 低め？のような。
- I. Aさんは違うこと言ってたね。社会的に、って。
- A. 社会的に、女の子はそういうものだと思うされているっていうか。だってわたしは、ねえなんか、そういうイメージ。自分がどうとかっていうよりも、「女は男に依存するものだ」「男は守るものだ」みたいなのが自分の今まで生きてきた中でそういう観念をもってしまっているから。それは社会的な影響なんかなって思ったり。で、それをわりと、助長するっていうか、「それがいい」みたいなのを取り上げられているじゃないですか、けっこう。前もね、ゼミのときも取り上げてましたけど。なんかね、社会のせいにするものあれなんですけど。

なぐる指導

- C. わたしも社会というか、習慣というか。とくに女子バレーボールとかっていうのは、男のこわい監督がいて、っていう。わたしの高校のときも女子バレー部がすごい強くて、先生もこわくて、よく先生からなぐられたりとかいう話もよく聞いて。もしほかの部活だったら、そういうことは暴力、

体罰だとかなりそうだけど、バレー部の話を聞いたら、やっぱりあるんや、そういうこと。たいへんやね、って言ったたら、うん、習慣みたいになってて。

A. バレー部ってそうやんな。わたしもそうやったわ。中学校のとき。

I. それは女子だけ？男子はなぐられていないの？

A. 男子はなかった。

B. 男子バレー部はうちもなかった。女子だけ。

A. 女バレは・・・なぐったりとか。

B. あったんや。

A. うん。でもその先生がわたしが2年のときに違う学校に行っちゃったから。でも小学校の時から聞いてて。わたしは母親がバレーしていることもあって、やりたいなって思ってたけど、そういうの(なぐったりしている)を聞いて、体罰・体罰っていうより、指導法として殴るっていうのを、小学校のときから聞いてたから、小学校の時から、バレー部だけはやめようと思ってた。・・・バレーってなんか、そういうイメージあるよなあ。

I. バレーしか聞かない？ 殴られるのが当たり前前の指導になってる、みたいな感じのスポーツって。

B. でもわたし、ソフトテニスを中学校のときやってましたけど、試合に行ったらやっぱりめっちゃこわそうな先生がいて、試合終わるたびにその先生のところに行って、すごくおこられてたりとか、というの。

I. 練習中になぐったりしてるんだらうか？ソフトテニスで。

B. うん、でもすごく怒ってるのを見て、みんなで「こわ！」とか言ってたのは覚える。

I. それは女子？

B. 女子。

I. バレーボールはなぜ出てくるんでしょうかね？

A. 絶対でも、出てくるでしょ、体罰って言ったたら、バレー、みたいな。

I. これはでも、なんかあるんですよ、歴史的にね。

A. 大松監督。有名や。

高橋選手と小出監督

I. じゃあ、最後に、高橋選手と小出監督の関係について、思うところを。

C. 最近、高橋さんじゃなくて、千葉さんも小出監督の指導を受けてたかなんかで出ていたんですけど、高橋選手はどうなただらう、と。なんか、小出監督がでたら高橋、という・・・

A. ああ、なんか、セットみたいな。

C. なんか、浮気っぽいというか。その、失礼なんだらうけど、夫婦っぽい感じで。

A. うん、なんかペアやもんね。

C. 恋人どうしみたいな。

I. 夫婦とか恋人同士みたいに見えてた？

- C. 全然違うっていうのはわかってるんですけど、信頼関係っていうかそういうのを見ると、そういうのに似たつながりがありそう。
- A. え、でもわたしはスポーツしてないから、いえることなんか知れないけど、あそこまで監督を信頼して・・・わたしは依存してるかなって思うから。そこまでできるもんというか、またそれを全面的にアピールしてるじゃないですか、メディアに対して。「監督のおかげです」とか。そういうのがすごいなあって思って。すごい・・・
- I. 「すごい」の中身は、異様に思える、の「すごい」？ それとも、「すごい素敵だな」？
- A. わりと、わたしにとって、異質。でも、スポーツの世界ではあることなんかな、って思ったり。でもスポーツの世界でもわりと異質とまではいかないけど、特別やな、なんか。わりとすごくない？ すごいって、そればかりやけど、さっきから。(笑い)
- B. たしかに、結びつきが強すぎる。
- A. うん。
- I. 男子選手と男性コーチ、指導者で、あんなのって？
- B. あんまり浮かべへんかな、具体例は。
- C. なんか、あんまりテレビで言われたりしないから知らないだけかな。知らないだけで、あるのはあるのかも。
- I. あるのはあるんでしょうか。ああいう1対1の師弟関係っていうのが。
- A B C. う～ん。はあ。
- A. でも全面的に押し出してるよね、女子選手と男性の監督だったら。
- C. 男同士だと、信頼関係があったとしても一定の距離は置いていそう。
- A. うん、わかるわかるわかるわかる。
- I. ああ。
- A. すごい、わかるわ。
- B. 対等に近い感じ。
- C. 私生活にまで口をださない感じ。小出監督がクビになったときにー
- A. ああ、高橋選手がついていったね。
- C. そんなようなことはしないような気がする、男の選手だったら。
- I. うん、一定の距離と、何だっけ、相手の生活にそんなに入って行かない？
- A. うん。
- I. その壁がなんかこう、すごくなくなっちゃってるようになってというのが、夫婦みたいに見えるとか、恋人みたいに見えるとかっていう見え方につながっているのかな。
- A. うん、うん。
- C. 依存してるってことかなあ。
- A. なんかなあ、うん。
- I. だって今、対等っていうことばもでてきたもんね、男性だったら。全部でもないにしろ強くなっ

ていく女性選手と男性指導者とのあいだにはそういう関係も見えてきて、男性選手だともうちょっと対等な関係を結んで、信頼関係があってももうちょっと対等な関係で距離を置いていて、そこまですぐ相手に踏み込んでいかないように見える？ とするとこの（新聞記事の）現実はあるがもうそでもなかろうという感じですか？

A. えー、でもなんかそれは・・・

B. 反例はないんかなって思う。

I. でもこれも一部の事実なわけでしょ。女の子がこういう記事によって先入観を与えられているところもあるだろうし、男性監督の女性選手に対する先入観もあるだろうし。でもどうも、女もそんなふうには育ってんじゃないかというふうにも思える？

C. 認めたくないけど・・・

AB. (爆笑) そうそうそう！ 複雑やね。

I. じゃなにが問題？ 女がそんなふうには育てられて、男がそんなふうには育てられてないんじゃないかっていうこと？ それとも？

A. この記事みたいな例だけじゃないと思うんですけどねー。これを良かれと思って書いてるじゃないですか。

B. 記事の中で一応反論みたいなのは書いてるけど、すぐに否定して、こういう事実がこれを物語っているみたいな・・・

I. よけい強化されちゃう、みたいな感じ？

A. うん、うん。

I. なるほど、じゃあ、このへんで終わりにしましょう。長時間ありがとうございました。

<その2 グループY>

Q1. 調査用紙の問10（スポーツ内）と問11（スポーツ外）では、セクシュアル・ハラスメントと認識する項目に違いがありましたか？ あるとすればそれはどのような項目ですか？

Q2. その違いはなぜ生じると思いますか？

触る（仕事や活動中／指導中に腕や肩などにさわる）

A. 「仕事や活動中からからだに触る」。アルバイトやボランティア活動中にそうされた場合は「どちらかというところセクハラと思う」。「指導中に腕や肩に触る」「マッサージで触る」は、「どちらかというところそう思わない」と回答しました。スポーツ指導の場面だと、からだとかからだの接触が自然に行われることがけっこうあるし、指導されてる方も、「いや、今セクハラされてるわ」とかじゃなくて、自然に受け入れてたし、わたしも実際にそうやって指導されたこともたくさんあるし、ふつうにありうることなので、ここらへんに違いを感じました。

B. 私も同じ回答で、同じようなことを考えました。やっぱりスポーツを指導してもらう際には、ことばの説明だけではなかなか伝わらない部分というのがあると思うんですよ。先ほど言われてたみ

たいにからだを触って指導を受けた経験が私自身あるし、それをセクハラだとは感じなかったです。あと、個人的な意見ですけど、スポーツ内だと信頼関係が築けていることが多いと思うんですよ。やはり同じ行為をされても、相手によってセクハラと感ずる場合と感ずない場合とがあると思うんですけど、信頼関係が築けている場合は、身体に触られてもセクハラと感ずないことが多いと思ひました。

C. そうですね、基本的に同じ意見ですけど、あの、自分がそれを体験したワケではないですけど、高校の時のクラブの友達が、運動系ではなく文化系のクラブ（吹奏楽部）で、活発なクラブで、けっこう顧問の先生が男の先生で、セクシュアル・ハラスメントがあったみたいです。信頼関係っていうのは築けてたかもしれないんですけど、やっぱりその子はいややと。それが原因でその先生も転勤になったりとかいうのもあったみたいです。

I. ああ、それはかなりその、あの、その先生が生徒に対してやられたことがセクハラとして学校で公的に問題になって、処分された、と。それはたとえばどんなことがらだというふうに聞いておられますか？

C. 具体的なことは知らないですけど。

I. 信頼関係があっても、そういうことも生じる、と。

C. だからそのへんの感ず方は人によって違うから、むずかしいなあーと思ひました。

I. 今言ってくれてたのはからだに触るといふことなんだけど、「あいさつや励ましのためにからだに触る」といふ部分について、これについては（スポーツ内外で）違いはありました？

B. わたしは違いがなかった。どちらとも「そう思わない」といふふうに回答しました。

A. 私も違いはなく、「どちらかといふとそう思わない」。

C. 私もどちらとも同じ答えで、「わからない」といふか、場面によって違ってくるんで。

I. 触り方にもよるんだろうけど。ほかには違いはありませんでしたか？

個人指導（特定の人物だけに個人指導をたびたびおこなう）

B. 「特定の人物だけに個人指導をたびたびおこなう。」日常のほうは「そう思ふ」と答えたんですが、スポーツは「そう思わない」と答えました。

I. それはどういふ理由で？

B. まあ、あの場合にもよるんですけど、自分のなかのイメージとして偏見はあるかも知れないですけど、スポーツの場ではたとえばスポーツによってポジションとかあると思うんですけど、ポジションによって練習の内容に違いがあるし技術にも個人差があるんで、そういう部分で、個人指導は必要な場合もあると思うんですよ。なので、個人指導がセクハラだとは感ずないんですけど、日常生活の方では、はっきりした理由はちょっと自分でもわからない部分があるんですけど、イメージ的にといふか・・・。

I. 学校の中とかアルバイトで、特定の人だけにこう・・・

B. 個人指導、そこまではする必要があるのかな、と感ずる部分があります。

I. じゃあさっきのスポーツの場面と同じ想定にしてみて、たとえばアルバイトの場でうまくできなくて、その人に対して指導が集中したりという場合もありうると思うんだけど、そういう場合は・・・？

B. そうですね。それをそういうこともあり得ると思うんですけど、それをセクハラだとは、スポーツの場合だと感じない。でも、ほかの場面だとセクハラという感じを受けるかも知れない。

I. ほかの人はどうでした？

A. えーとわたしはスポーツの方では「どちらかというと思わない」にして、日常の場では「わからない」にしました。それは、スポーツはやっぱりもうちょっとこの子がうまくなってくれたら、とか指導者の方も熱がはいってしまうと思うんですよ。だから、その、よく指導される人とあまり指導されない人というのは、私自身やってても、そういうふうに感じたこともありますし、でもそれは、「あ、ほんとにこの人が技術的にも上手くなったらチームがよくなるからやなあ」とか、そういう捉え方をしてきたんですけど、アルバイトのことを想定したら、できない人に上司が指導するということはあると思うんですけど、実際にやっていたアルバイトで、うわさですけどたとえば「店長さんはだれだれを気に入っている」とか、そういうのを耳にしていたら、あ、そういう目で又指導してはるわ（笑い）、と。だからいろいろあるんで、「わからない」としたんですけど、どっちかっていうとそういう部分でセクハラ的な部分があるのかなと思ってしまう・・・。

I. スポーツの場面ではあんまり思わない？

A. 思わない。

I. ふうん。不思議な感じもしますね、なんかね・・・。（笑い）その人が著しく能力に欠けている場合、まあ、それを理由にしているのかもしれないけど。周りの人がひがむのかな、そういううわさがたつのは・・・

C. スポーツは「どちらかというと思わない」アルバイトと想定した場合は「どちらかというと思おう」にしたんですよ。それは、言ってこられる上司やコーチの違いがあって、スポーツの場合は、その人がスポーツを好きやから教えられるし、個人指導もするっていうのがあると思うんですけど、アルバイトの場合は、正社員とはちがって、そこまで能力は求めへんやろう、と。（笑い）

I. 真剣じゃないやろ、と。

C. シビアな話ですけど、能力がなかったら消えるっていうのがアルバイトだとあって、真剣に足りない技術を上げるためっていうのに結びつくんじゃないと。

I. はあ、なんかヨコシマな考えをいだいとるんちゃうか、と。（笑い）

なるほど、スポーツの中での指導者にはみんな信頼感があって、そのなかでの行為はかならずしもセクハラとは結びつかないという認識なんですね。

「お酌やデュエットをさせる」「自室に呼ぶ」（カラオケや飲み会で、お酌やデュエットをさせる）

（遠征、合宿先で自室に呼ぶ）

A. 両方「どちらかというと思おう」にしました。

まずアルバイトでは、どうしても飲み会になったらお酒をつぐとかカラオケとかいうのはありましたし、けっこう上の人が多いですけど、「おまえ、こっちすわれ」とか(笑い)、自分がそんなに飲みたくなくてもかってに頼まれて、「おまえこれ飲め飲め」とかいうのはありました。

スポーツの場合、合宿に呼ぶというのは、キャプテンが呼ばれて、「あしたのメニューや、みんなにこれこれ言っとけよ」というのはありました。でももしかしたら、個人的に選手を呼んでる人もいるのかなと思ったりして、「どちらかというと思う」にしたんですけど。

- I. もし自分が呼ばれたとしたら、あるいは人がいつも呼ばれたとしたらどんな感じ？
- C. ちょっとした違いが。スポーツは「どちらかというと思わない」アルバイトは「どちらかというと思う」。スポーツのほうは経験もないし聞いたこともなくて、想像がつかないんですけど、その場面だけを見ていたら、なんとも言えないなって。今日のプレイについて今日じゅうに言うとかなあかんわ、というのかもしれないし、セクハラ的な感じで呼んだのかっていうのが、呼ぶという行為だけでは決めにくい。明らかに気に入ってるから呼ぶんやろというのは、ほかにも練習中とか見ててもあると思うんで。呼ぶという行為だけではなんともいえないな、と。アルバイトはさっきのようなことで・・・。(笑い)
- B. 「自室に呼ぶ」については、アルバイトの場合で考えたんですけど、わたしがやっているアルバイトでは、社員さんもアルバイトも一緒に旅行に行ったりしたことがあるらしく、そういう旅行の時に、自室に呼ぶ必要は、なんかその、いやらしいことを考えて呼ぶ以外の理由がないと思える。(笑い) スポーツの場合は自室に呼ぶ理由が考えられるんですけど。スポーツに関してはよく理由があるけど、ほかの場面では理由が考えられない。(笑い)

「女性のくせに」「女だから」(「女性のくせに～」「女だから～」などという)

- I. この項目に対して、セクシュアル・ハラスメントとの認識が緩やかな感じなのは、なぜ？
- C. 性的なことがらがセクハラだととらえてるから、それに比べたら、ましなんじゃないかな。
- I. セクシュアリティというよりはどっちかというジェンダーハラスメントだから、セクハラといわれるのには違和感があるのかな。「おばさん」「ねえちゃん」は平気？人格を低く受け取られるような感じは受けはしない？
- A. 私はスポーツの場では「2(どちらかというと思う)」にしました。なんか、やっぱり真剣な練習の場で、もし監督が「ねえちゃん」とかいう呼び方をしたら、あれってびっくりすると思う。
- B. 友達どうしとか、ふざけて冗談ぼくいうには言いやすいかも。でも時と場合によるから「わからない」。
- A. もともと最初から監督と選手が、たとえば小出監督とキューちゃんとかいう愛称で呼ぶのはいいと思うんですけど、真剣にやっているときにそう呼ばれるのは・・・。あ、でも「おまえ」とかいうじゃないですか、「おまえ」と呼ばれるのも低くみられてる感じがする。
- I. 小出監督と高橋選手の関係、結びつき方は、みんなから見ててどんなふうに見えるのかな？ 男性指導者と女性競技者の1対1の、個人競技の指導関係のありかた・・・？

- C. 自分ではありえない、そんな。そこまで、コーチと、教えられている人と、そんな、自分では考えられない。自分のなかでは線があるから、すごいなあ、と。
- I. つまり、線がないように見える、と？
- C. はい。なんか、すごい仲よさそう、と。まあ、それとはちょっと意味がちがうと思うんですけど、あんなコーチとうち解けられるのはすごいな、と。
- I. それはその、肯定的な意味で？ それとも否定的な意味で？
- C. 自分がそういう立場になることは絶対ないだろうな、という。
- I. 肯定も否定もしてない？
- C. はい・・・。
- I. 単に指導者と自分のあいだには線があるから、競技者としての自分の場合はありえない、と。
- C. どちらかというかと否定ですね。
- I. どんな意味で？
- C. なんのために自分はスポーツをやってるのかな、と考えたときに、自分はそこまで入ってこられる、関わられるのはすごいやなんで、自分でやってるんじゃないかとやらされてるって感じてしまうんじゃないかなと思う。
- B. わたしも小出監督と高橋選手の結びつきはわたしのなかではありえないことなんですけど、それは否定的な意味ではないです。このあいだ、オリンピックにでられなかったときのインタビューで高橋選手が言ったことばの中に「小出監督を連れていけないのが残念」って言うのがあって、それはテレビだからああ言ってるのかもわからないですけど、そこまで監督のために、そこまでの結びつきは、わたしだったらスポーツをやっているのは絶対自分のためなんで、いくらその指導者を尊敬してても、指導者のためにという考えは、ちょっとはあるかも知れないけど、一番ではないです。
- I. テレビを意識してというのもあると思う？
- B. そういう部分もちょっとはあると思う。
- A. 信頼関係というのはできてると思うんですけど、これは聞いた話ですけど、高橋選手は小出監督の前でも平気ではだかになって着替えたりとかするって聞いたことがあって、そういう聞いたときに「ええッ」と思って、「お父さんと娘」を越してるって、それはどうなんやろうとすごいびっくりしてしまいました。ある意味、洗脳されてる部分であるのかなと思う。この人の言うとおりにやれば絶対できるとか、それは自分にも能力があるからなのに、この人のおかげで自分はこうなれたとか、そういう気持ちが強いから、ああいう、監督を立てるといふか、そういうのになったり。
- I. 有森さんも小出監督だったのよね。他の人も教えてたりするけど、でもあのコンビだけでしょ、小出監督が会見に出てきて、「この子は」「キューちゃん」とか。そういう呼び方に関してはどう感じる？
- ABC. 別になにも。
- A. あのふたりはつねに一緒、セットって感じはする。

- I. たとえば有森選手に、「裕子ちゃん、裕子ちゃん」で、監督が呼んでたら、どんな感じ？
- C. キューちゃんの場合は、そういう場面をテレビで見ててそういう認識があるから、おかしいとは思わないけれど、有森選手の場合は見たことがないし、想像がつかない。もし最初からそういう二人の関係がテレビで放送されてたら違和感は覚えれないと思う。
- I. 男子の場合は、金メダリストを「この子」「〇〇ちゃん」って呼んだりすることはあるのだろうか。それと比較して考えたときに、どう？ 高橋選手の場合は女の子だから違和感がないって感じ？ 男子の選手でも、監督と選手が親しかったら「ちゃん」「この子」とかもOK？
- C. ふふふふ、いいとは思いますが、あれ？、みたいなのが一瞬。
それはやっぱり男の人はこう、っていうイメージが、ジェンダーかもしれないけど、男の人と女の人との違い 男の人にそう呼ぶと「ええっ」で感じるけど、女の人にそう呼んでもなにも感じないっていうのが頭の中にあるから。
- I. 男性選手に対する「ちゃんづけ」はへん？
- B. 聞いたことがないからわからない。

Q 3. 新聞記事について、あなたの感想を聞かせて下さい。

印象、感想

- B. まずこの「依存」っていうのにひっかかりを感じました。
- I. つまり記事の立て方に？
- B. 文章を全部読んだら、こういう見方や考え方もあるのかなと感じたんですけど、最初のこの部分を見たときには、女性を低く見ているというか、男性がいなければ女性は強くなれない、みたいな捉え方には疑問を感じました。
- A. えっと、「(監督というのは選手にとって) 親友、親類、恋人の3条件をそなえた人のことですよ」という増田(明美)さんのコメントがあって、わたしは恋人のような恋心っていうのがちょっとひっかかって。自分が今までスポーツしてきて考えてたんですけど、特に高校の時にはビシバシ、スパルタ指導されてたんで。
- I. ずっとバレー部？
- A. はい。
- I. すごくなかった？
- A. はい。他のスポーツしてる人からも「なんでバレーはあんなにどなったりしばいたりするのって言われてて。」
- I. どなり、しばきもあった？
- A. はい。けりとか。ひっぱりまわしたり。高校のバレー部も、女の人やったけど。
- B. それ、やっぱり、レベルが上やった？
- A. でも、あの、強い部ほどそういうのがあったかも。
- I. よそのクラブではあんまりそういう(なぐるける)のは、ないの？

- A. あー、はい。いつも、なんでバレー部はあんな先生ばかりなん？ってよく聞かれてて。合宿してても、絶対どこのチームもそうなんですよ。どこの監督さんも自分とこの選手に対してすごいから、もうなんか、監督同士が張り合ってるんですよ。あっちもあんなんやってるんやったら、うちもって。やっててすごい恐怖やったんですよ。日常茶飯事でずっとやってきて。だから監督に恋心なんて、とんでもない！（大爆笑）
- だからこのコメントをみて、ううん？って思ったんですけど、だけどほかのスポーツだったら、高橋選手と小出監督だったら、まわりから見てもそういう気持ちももしかしたらあるのかもしれないなと見えたりするんで、こういうたとえがあるのかも。でも私自身納得できる内容ではなかったんです。
- I. ふたりは、恋心っていうのはどう？
- B.C. . . .
- I. 今Aさんが言ってくれたのは中学校や高校にありがちなひとつの指導のありかたかもしれない。大学だともう少し違うのかも。ほかに感じたところは？

スポーツにおける女子指導と男子指導の方法論の違いについて

- C. いちばんびっくりしたのは、日本体育協会編という公的な「女子スポーツ指導ブック」の内容にびっくりして、そこまで女子が低く見られてるのかって、びっくりした。何を見て言ってんねやろ。
- B. 私もこの部分にはちょっと怒りを感じました。
- I. いったんはそれを否定したうえで、そのあと、ある指導者のことばを引用してるところは、どう感じた？ 「男子に対しては十のうち四か五を教えればいいが、女子は十のうち全部教えなければだめだ」というようなコメントに対しては？
- C. わたしの場合、むかし男子と女子とバスケを一緒にやって、指導者が指導法を使い分けることはなかった。誰に対しても十教えてた。男子はそれに対して文句というか、なかったし、必ずしも男子には十のうち四とか五とかいうのではないと思う。でも強さ、男女のレベルには違いがあった。男子はそう強くないけどちょっと強いくらい。女子はめちゃくちゃ弱くないけど、中の下くらいで。なんでそこが違うのかなと思ってた。
- I. ああ、同じように指導してて、男女のランクが違うのが？
- C. 男子と一緒に練習やってたら強いやろって（周りから）言われて。
- I. 指導法、まったく一緒だった？ ことばかけて。男子チームはこれしろ、女子チームはあれしろとか。
- C. まったく一緒。区別はなかったです。
- I. じゃあ、この記事で言われているようなことには実感がわかない？
- C. 自分が指導されるなら、この男子用の指導の方が絶対に自分にはあってると思うから。
- I. ああー、十のうち四か五しか教えないようにしてあとは自分で伸びさせるという
- C. そうですね、全部言われると、なんでやってんねやろって。考えさせられてないから、いいんか

な、これでって思う。

I. Bさん、どう？この男子指導と女子指導の違いについて？

B. わたしのいままでの経験上、毎日コーチが指導に来られるという経験がないので、中学校の時もほとんど自分たちで練習してたんで教えられないという経験がないんです・・・。

I. こういうふうにかかれていてのことに対してはどんな感じがしますか？

B. わたしもどちらかという、十のうち四か五を教えてくれた方が自分では伸びると思う。

I. 十をすべて教えられたらどんな感じがする？

B. その十の中に自分がすでにわかっていることがあったら、「そんなんわかってるわ」って思うと思う。そこまで言わなくてもいいのにな。人によって違うと思うんですけど、大きく男子／女子に分けた場合は、こういう風にかかれるのも、わかるような気がするんです。

I. 「わかるような気がする」、それはどんな感じ？

B. 競技によって違うと思うんですけど、バレーとかで考えた場合に、女子の場合十すべて教えるっていうのはそんな感じなのかなあって。

I. バレーって。どうですか、Aさん？（笑い）

A. いや、でも、高校の時は徹底して、先生のいうとおりにみんなやるんですよ。

I. なぐられながら？（笑い）

A. 練習のこともそうだし、私生活のことだって、ずっと管理されてるっていうか。まあ、食事とかスポーツマンにとって大事なことから、ある程度教えてもらうこともあると思うんですけど。服装のこととか、とりあえず「おまえたちは模範生なんだ、みんなの見本にならないといけないんだ」って。高校の時はその先生の言わはることはすべてやらないとダメだった。バレーとはちょっと関係ないこともつつこんでこられるんです。そのときはひたすらその先生のいうとおりにしてたんですけど、今考えたら、ようあんなことやってたなって思う。けどやっぱり結果的に優勝したりして、結果がついてきたので、だからそれでみんな信じてやってきたと思うんですよ。

でも大学では、勝つっていうのももちろん、それはまあ、勝つほうがいいんですけど、でも監督に徹底して決まり事をつくられたりとか、そんなのは全然なくて自分たちのやりたいことを中心に教えてくださるっていう感じで、全然高校の時と違うんです。それでもちゃんと最終的に結果はついてきたんです。めざすレベルとしては違うんですけど、高校の時はトップレベルだったんですが。でも十のうち四から五しか教えなくても、考えてやる人は絶対いると思う。男子でも、一から十言わないとわからない人もいると思うんです。だからそういうのを考えてたら、ある意味これ（記事）はそうかなあて思うこともあるけど、でも自分の経験してきた中ですべてそうではないなあという感じですよ。

恋愛禁止

I. 高校の時になにからなにまで管理されてたと言ってたけど、たとえば恋愛については禁止とか、ありましたか？

A. もちろん。たぶんどこのバレー部も、女子バレー。男子はそういうの（恋愛禁止）、ないんです。むしろ男子は試合の時に連れてきなさいっていう監督もいるぐらいらしいんです。男性は、彼女ができたややる気が出るみたいな見方をされるんです。でも、女子選手は恋愛したら、「ちゃらちゃらする」っていうんですよ、先生が。バレーの先生だけかもしれないんですけど。「ちゃらちゃらすんな」って。わたしらにしたら、なにがちゃらちゃらなんや、って思うんですよ。そういう恋愛とか服装の乱れとか、別にだれもしてなかったのに、そういうふうに言われると嫌な気分がしました。まあ、みんな守ってましたけど。

I. よその学校も女子バレー部は、恋愛禁止が多かったですか？

A. はい。多かった。男女交際禁止で。で、みんな守ってたのかわからないですけど、一応決まりとしてはほとんど、たぶん、いろんなチームと練習試合しましたが、ほとんどそういう決まりは確実にありました。

I. 聞くの？ 一緒に練習した後、あんたんとこ、どうなるとか。

A. はい。夜しゃべったりしたときに。いつもでできますね。

I. すごくおもしろいと思うんだけど、男子にはむしろその方が頑張る力が出せるという指導で、女子には「ちゃらちゃらすんな」？ それだとなぜだめだとか、その理由はなにか説明されました？

A. いや、されない・・・。

C. どこからそういうことができたんやろ？ その先生も、男子は彼女がきたら張り切って、いいふうにはたらくっていうのは、あたりまえっていうか、経験上、その先生が調べてやったんじゃないかと、みんながそうやってるからって、すべてがすべてじゃないかも知れないけど、それが多いと思うんですよ。うちのクラブはそういう区別はなかったんですけど（高校の時）ほかのクラブのこと聞いてたら・・・ラグビー部とサッカー部が強かったんですよ。男の子は彼女がきたら張り切るから、どんどん連れてこい、みたいな感じで、顧問の先生が普通に部員に言ってたらしいんですよ。そのときは「ええっ？」で笑って聞いてたんですけど。

I. まあ、よく一般的に言われるのは男女交際をしていると、女子の方はそれに気を取られて、競技に集中できなくなるけど、男子はそうじゃないと言われる、そのへんは自分の現実感と照らし合わせて、どう？

C. そういう傾向が多いだけであって。多いのか、そう言われるには絶対理由があると思うんですよ。だから、そういう人がどちらかという和多いかな、ぐらいで。みんながみんなそうじゃないし、それは性別によって変わるのかな、とは思いますが。

I. Bさんはどう思う？男女交際に対する指導者の目線の違いに関して？

B. うーん・・・。そういうふうに、一般的にいわれるのも、わかるっていうか、両方の立場のことがわかるっていうか。

I. 両方？

B. 男の子は、彼女連れてきた方がプラスで、女の子は彼氏をつくらんほうが競技に集中できるっていう意見も・・・そういう見方もされるから。私自身が、もし彼氏ができるときにけっこう尽くすほ

うなんで、そういう部分はあると思うんですよ。

- I. 彼が彼女に尽くして時間をなくすってことはないだろうか。
- B. それもあると思うんですけど、どちらかというと、女性が男性に尽くすっていう方が多いのではないかなって思うし、一般的にはそう見られてるのかなって感じます。
- I. そういう認識が、指導の中で女の子は競技に集中するためにそういう行為を禁止するということに定着していったる・・・
- B. はい・・・と思います。

「依存度」

- I. 最後にひとつ、タイトルに準じて、指導者に対する「依存度」は、男女で違いがあると思います？
ABC.....
- C. ここではトップレベルの人たちの話しだと思うんですけど、ここでは女子には徹底管理、男子には十のうち四か五しか教えないっていうほうが、実に結びついているのかなと思いました。だから、それを見ると、一般的にこれはあってるのかなと思う。
- I. それはイメージなんだろうか、それともほんとうにそういう傾向があるのだろうか。
- C. これを言ってる人は、すべてのピンからキリまで強いとか弱いとかある中で、弱い層が強くなるってということもあると思うんですけど、その層を全部調べたのかなって思うんです。
- I. まあ、自分のトップレベルのところだけみて、そこで言えることを全体に還元して言っちゃってるんじゃないか、ってことですね？ Aさんは？
- A. わたしは違いはあるように感じます。わたしはずっとバレーをやってきたんで、試合とかでも練習でも、女子は先生の言ったことが絶対で、それに基づいて練習したり試合したりするんですけど、全日本をみても女子って、タイムアウトのときとかでも、絶対監督の指示がすごいめだつっていうか、それに対して選手が「よし、はい」みたいな感じになってるなあって、こないだワールドカップのときに思って。それに比べて男子は、監督はなんもノータッチっていうか、ほとんど言わなくて、選手同士でこうしようとかああしようみたいな光景を、TVを通してそういうふうを感じたんですけど、やっぱりそれって、ここに書いてあるように、男子には四か五しか教えないから、残りは自分らで相談しあったりとかで、女子はピンチのときでも監督が指示して、それにみんなが、「じゃあ頑張ってプレーしよう」みたいなところがあるなあっていうふうに思ったんで、そういうのを考えてもやっぱり、違いがあると思います。
- I. うん、たしかに現象面ではそういう違いがあるんだけど、そういう依存度って、もともと男女でとくに違うのか、「一般的にそう思われてるからそう育てなくっちゃ」という傾向の中でつくられていくものなのか、そのへんはどう思われます？
ABC.....
- I. さっきのAさんの話を聞いてたら、「自分らでやったって、ある程度勝って結果もだせるやん」というのがあったでしょ？ そのへんで考えたらどうなんだろう？

A. なんか、監督が、「こういうチームを仕上げたいとか、自分の思い描くとおりにさせよう」って、やっぱり女子の監督って、けっこうそういうの多いと思うんですよ。なんていうか、選手がやりたいて思うこととかこうしていきたいと思うことがあっても、「勝つためにはこんなんや」みたいな考え方をもっている監督は多いと思うんです。でも、大学ではそういう監督じゃなかったんで、そうじゃない人もいてことは、自分の考えを選手に全部伝えるっていう人が多かっただけで、女子はそういうふうになってしまったのかなって、思います。最初からもし男子と同じような指導方法がもっとでてたら、それはそれでそうになっていったかもしれないし。

I. さっきBさんもCさんも、十のうち四から五教えられたほうが自分は伸びるような気がするっていったし、その可能性は十分にありっていうことかな。

じゃあ、このへんで終わりにしたいと思います。今日は長時間どうもありがとうございました。